

會務報告

第24卷第11號 昭和13年11月

役員會

第17回理事會(昭.13.9.19.)

出席者：辰馬會長，金子，山崎，樫木各理事，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

議 事

1. 關西支部申出の特別員會費第2期分は精算の上交附することとせり。
2. 地下構造物に於ける鑿材節約調査委員會助手1名を依囑することとし人選を山口委員に一任せり。
3. 文化映畫委員會事務囑託の件は一時保留とし委員長と協議することとせり。
4. 東京市企畫局都市計畫課との會誌交換を承認せり。
5. 入退會の件別紙(省略)の通り承認せり。
6. 關西支部京阪神水害對策調査委員會副委員長近藤泰夫君に對し本會關東及關西地方水害調査委員會相互事務打合の爲出張の旅費を支出することとせり。

第18回理事會(昭.13.10.3.)

出席者：金子，山崎，樫木，岡田各理事，辰田前會長，中村書記長，小野寺庶務主任，糸川編輯主任

報 告

1. 東北支部第5回役員會議事を報告せり。
 2. 關西支部第8回役員會議事を報告せり。
- 講演及映畫の會を10月11日帝國鐵道協會に於て開催することとせり。

議 事

1. 第3回年次學術講演會は明年4月乃至10月福岡市に於て開催することとし西部支部に對し經費1000円を交附し開催に關する一切を依頼することとせり。

以上の外次の申合せをなせり。

(1) 西部支部發會式舉行前に於ける同支部管内の未承認入會申込者は入會承認ありたる者と同等の取扱を爲す便宜を興へることとせり。

(2) 日本工學會の名譽員に同會前理事長眞野文二君を推薦することに就て眞田前會長より同會評議員會の意向を説明し協議の結果土木學會としては推薦することに異議なきことを申合せたり。

第8回常議員會(昭.13.9.12.)

出席者：辰馬會長，金子，高橋(嘉)，川口，阿曾沼，伊藤，菊池，青木，高橋(甚)，森田，松田各常議員，岡野前會長，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 外人功績調査委員會幹事に江澤甚一君を依囑せり。
2. 北海道支部長に吉町太郎君を再選せられたるに依り之を依囑せり。

議 事

1. 平山復二郎君より副會長辭任の申出ありたるに依り之が補缺選挙を速に行ふこととせり。
2. 常議員佐野俊男君，淺間逸雄君転勤に伴ふ補缺選挙は次期選挙期まで行はざることとせり。
3. 副會長補缺選挙に就き候補者詮衡のため次の諸君を委員に依囑することとせり。

藤井眞透君	藏重長男君	島野貞三各
松井達夫君	水谷鏘君	笹森巽君
風間武雄君	土本基君	岡部二郎君
堀内保君	野口誠君	目黒清雄君
松田勘次郎君	徳善義光君	太田尾廣治君
廣瀬孝六郎君	杉本禮三君	下浦眞清君
増谷悠君	鈴木長治君	中倉專一郎君

總務部記事

第18回土木學會文化映畫委員會(昭.13.9.6.)

出席者：青木委員長，瀧尾，澤，五十嵐，横田，片平各委員，藝術映畫社3氏

1. 青木委員長より前回委員會決議事項の實施成績につき報告あり。
2. 土浦町ポンプ排水状況を撮影せしむべくニユース寫眞聯盟に報告せし結果聯盟より各ニユース會社に指令せしとの報告を得たり。
3. 豫て募集中のシナリオ8篇の応募あり，次回委員會に於て第1次審査を行ふこととせり。
4. シナリオ募集の締切期日を10月末日まで延期することとせり。
5. 藝術映畫社の企畫，製作關係3氏と懇談し青木委員長より本委員會の説明あり，藝術映畫社の3氏より同社の方針其の他を聴き援助協同を決議せり。

藝術映畫社の希望により洪水に関する文化映畫
 に関し内務省土木試験所の模型試験を中心となし
 員會として援助をなすこととし、横田、片平兩委
 その連絡係とせり。

東京土木出張所の徳丸君を囑託することとせ

9 同土木學會文化映畫委員會 (昭. 13. 19.)

者：青木委員長、瀧尾、澤、廣田、五十嵐、横田、
 片平各委員

總務部より 10 月中旬開催の講演と映畫の夕に
 すべき映畫の選定を依頼し來り、これに對し本委
 として下山氏撮影の“歐米都市文化施設”を推
 り。

本年の關東及關西風水害の實況映畫を土木學會
 て所有すべき事を決議せり。

本委員會推薦の映畫の會を開催することを決議
 上映すべき映畫の調査を徳丸囑託に依頼せり。

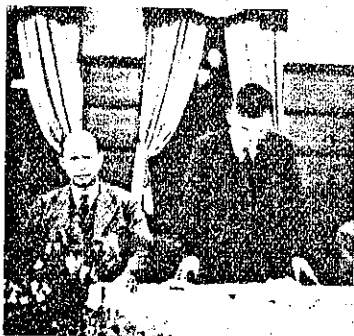
応募シナリオの第 1 次審査の一部を行へり。

同時局對策委員會 (昭. 13. 10. 7.)

者：加賀山學君、大河戸前會長、新井副會長、岡
 田理事、遠藤貞一君、中川委員長、眞田、金
 子、高橋(嘉)、榎木、宮本、富永、伊藤、永
 井各委員、辰馬會長、山崎理事、那波、名井、
 青山、井上各前會長、中村書記長、小野寺庶
 務主任、糸川編輯主任

海軍並に鐵道省の囑託として上海に於て活躍中の
 加賀山學君の出京を機會に同君並に淮南炭坑調査
 張された岡田信次君及本會代表として北支の土木
 を視察し歸朝せられた大河戸前會長、新井副長を
 内會館に招待して講話と報告を聴くこととし、加
 君より事變勃發前後に於ける支那の事情に就て所

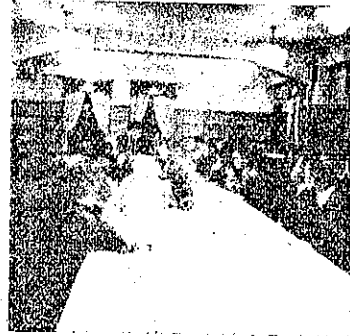
圖-1. 大河戸前會長挨拶



(向つて右は 大河戸前會長)
 (左は 加賀山學君)

感を述べられ、岡田君より淮南炭坑の調査に就て、大
 河戸、新井兩君より北支視察に關して夫々報告あり午
 後 9 時散會せり。

圖-2. 辰馬會長挨拶



第 31 回講演會及映畫會 (昭. 13. 10. 11.)

會 場：帝國鐵道協會

講 演：北支土木事業に就て (講演記事参照)

土木學會前會長 工学博士 大河原宗治君

土木學會副會長 工学博士 新井榮吉君

映 畫：歐米都市文化施設並に風景

梗概、米國、伊國、佛國、獨國大都市に於け
 る文化施設並に有名なる湖畔、公園、庭園等
 の風景を天然色で撮影した優美なる寫眞であ
 る。

山下重丸君撮影編輯

來會者：250 名

映畫終了後有志遊藝會を開催せり

出席者 44 名

編輯部記事

第 10 回會誌編輯委員會 (昭. 13. 10. 5.)

出席者：山崎委員長、伊藤(信)、大岡、太田尾、風間、
 黒澤、立花、廣瀬、安宅各委員、糸川、石田兩
 編輯囑託

協議並決定事項

1. 第 24 卷第 10 號所載原稿の謝禮を決定す。

2. 第 24 卷第 11 號に下記を追加す。

彙 報：民國 20 年揚子江、淮河の水災に就いて
 (會、山下清吉)

抄 録：コンクリート浮橋、アスファルト 道路工
 事の傾向と進歩

3. 第 24 卷第 12 號登載原稿を次の如く決定す。

論說報告：リースの説と之に基くコンクリート配

合の設計法(會, 内山質), 發電用貯水池計畫に於て考慮すべき諸條件(會, 松田全弘), コンクリートの收縮によりて起さるゝ内部反力に就いて(會, 工博, 小川敏次郎), 熱海海面埋立工事に就て(會, 原田碧), 兩龍川水力發電工事計畫概要(會, 松野辰治), 今福線下府附近砂丘切取工事に就て(准, 岡野幸三郎), 緩速濾過池に使用せるポーラス・スラブ(會, 鈴木銀次郎), 埋立に依る大阪の海岸線移動に就て(會, 坂元左馬六), セメント糊中の水分と圧縮強度(准, 篠原謙爾)

抄録: 砂中及薄板上の水流, 堰堤貯水池容量の図式解法, ワシントン湖の改正道路法, 鋼鉄道橋の曲線主桁の計算, ラーメン角部部の計算, 横溢流堰よりの流出量計算に就て, 揚子江口に就て, Galveston 海岸の防護, 片持梁の撓の一般式, 鋼製衝突に用ひた新接法, 盛土の安定に及ぼす岩石の影響, 最高の複拱堰堤, 土のセメント處理に關する試験, 支點が撓む場合の連続梁の応力, 平面交叉に於ける見透しの問題

4. 「土木工学論文抄録」編輯に關し糸川幹事より助手打合せの經過及その後の中間報告を爲せり。

調 査 部 記 事

第 2 回關西及關東地方水害調査委員會(昭. 13. 9. 21.)

出席者: 眞田委員長, 鈴木, 阿曾沼雨副委員長, 伊藤(信), 伊藤(剛), 今井, 岡部, 沖野, 柳, 金子, 河口, 近藤(代り小林), 佐藤, 春藤, 田中, 高橋, 中原, 花房, 樋浦, 松井, 宮本, 山口, 近藤各委員, 富永, 三浦雨幹事, 中村書記長, 小野寺庶務主任

協議事項

近藤泰夫委員より京阪神水害対策委員會に於ける調査の方針並に調査の經過に就て委曲説明あり次で調査表作成その他に就て協議し次の如く打合せをなせり。

1. 關西支部扱の部門は本會と同一とし調査表は可成の本會の式に據ることとせり。
2. 關西支部扱の分に對しても總説(氣象, 被害概況等)を附すること。
3. 水道災害に就ては神戸市の外西宮, 尼崎, 住吉の3市を關西支部に於て追加調査すること。
4. 關西支部扱の調査報告は 10 月末日までに整理し取纏て本會に提出すること。

5. 關西支部扱調査表は各主査に於て適當に編輯すること。

關 西 支 部 記 事

第 8 回役員會(昭. 13. 9. 12)

出席者: 島崎支部長, 萩原幹事長, 柴田幹事, 宮内, 笈(代川上), 岩淵, 西, 岩井, 鈴木各商議員, 後藤, 坂本(代植村), 岩田, 松島(代柳田), 清水各前支部長, 三輪君(代大神君), 内山君(代中原君)

議 事

1. 第 9 回土木工学研究會の件
2. 關西大會の件
4. 中國支部設置の場合岡山縣をその區域へ移管の件

各種委員會の開催

土木專業計畫審査委員會第 5 回材料部會(昭. 13. 9. 14.)

第 5 回工事ニュース編輯委員會(昭. 13. 10. 3.)

東 北 支 部 記 事

第 5 回役員會(昭. 13. 9. 16.)

出席者: 鶴見支部長, 小出, 高田, 河合, 岡崎, 大石, 佐々木, 中原各商議員, 三島幹事長, 中津海, 中島雨幹事, 菊田主事

議 事

1. 第 2 回視察旅行に關する件
2. 商議員補缺選舉の件
3. 田淵商議員へ感謝狀及記念品贈呈の件

日 本 工 學 會 記 事

○昭和 13 年 9 月 27 日日本工業俱樂部に於て評議員會を開催し一般會務を報告し次で下記事項に就き懇話せり。

1. 國際材料試驗協會に關する件
2. 第 4 回工學會大會開催に關する件

そ の 他 記 事

○昭和 13 年 9 月 29 日副會長 1 名補缺選舉の投票用紙を全會員並に特別員に發送せり。

○昭和 13 年 10 月 1 日土木學會誌第 24 卷第 10 號を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 員 (入 會)

東邦電力株式會社

宮川竹馬君
鈴木鹿象君
森 菊 市君

島山好伸君
益田良彦君 2級

會 員 (入 會)

伊藤千代太郎君 岐阜縣廳土木課

熊本政晴君 和歌山縣廳土木課

准 員 (入 會)

池田克巳君 內務省土木試驗所
池田賢治君 上毛電力株式會社
一木卯藏君 岡山縣廳土木課
一月三平君 內務省名古屋土木出張所

大木正雄君 滿洲朝陽鎮工務區
中島力君 內務省東京土木出張所
深瀬喜介君 "
古郡哲爾君 內務省名古屋土木出張所

松川恒雄君 內務省名古屋土木出張所
森本國男君 細川組
安本勝彰君 北海道炭礦汽船株式會社
渡邊又義君 滿鉄北支事務局工務班

学 生 員 (入 會)

阿部豊吉君 仙臺高工
淺井元五君 "
伊揚野 學君 "
大石英夫君 日大高工
河原友純君 仙臺高工
木口正雄君 "
小林義二君 "
國分秀雄君 "
佐川孝記君 "
佐藤 勇君 日大高工
張 冰 萍君 仙臺高工
佃 忍君 關西高工
長岡秀雄君 日大高工
橋本幸一君 仙臺高工

早坂勝久君 仙臺高工
林 清君 "
増川通君 "
丸山 整君 "
山口安治君 仙臺高工
山家 豊君 "
山本軍治君 "
李 貞 頌君 "
淺井龍雄君 名古屋高工
伊藤徳男君 "
大杉正長君 "
岡田公一君 "
韓 徳 化君 "
木 全 茂君 "

小路貞雄君 名古屋高工
小早川震治君 "
古賀一平君 "
佐々木敏之君 "
佐藤 史君 "
齋藤哲夫君 "
杉浦哲夫君 "
高井善夫君 "
寺岡 庸君 "
中村良次君 "
藤垣頼雄君 "
堀川健六君 "
間瀬倫一君 "
山内正夫君 "

會 員 (轉 格)

加納 弘君 內務省名古屋土木出張所
川原敏郎君 平安南道廳土木課

土屋尙亮君 矢作水力株式會社
鉄村正三君 株式會社鹿島組

松岡道男君 株式會社横河橋梁製作所

准 員 (轉 格)

秋篠 龍君 關東州廳土木部工務課
瀬上鑛造君 東京市水道局擴張課

野田和郎君 延信省電氣局水力課
小山田宗人君 鐵道省東京改良事務所

土 木 学 會 々 員 數

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
3 014	3 580	826	77	21	7 518

會 員 土木學會中部支部長 杉山榮君 昭和 18 年 10 月 7 日逝去せられたり、
本會は弔詞及花環を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり

會 員 東 森藏君 昭和 18 年 9 月 12 日逝去せられたり、本會は弔詞を靈前
に呈し恭しく哀悼の意を表したり

會 員 小田 林君、田口俊一君、福來總十郎君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼
の意を表す

准 員 永井良男君は今次の支那事変に於て名譽の戦死を遂げらる、本會は恭しく
哀悼の意を表す

准 員 荒田芳弘君、鈴木興四次君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

會 告

副會長補缺選舉の結果報告

昭和 13 年 10 月 18 日本會々議室に於て常議員會を開催し選舉投票の開票を執行せり、その結果次の如し。

投票人員 792 名

副會長	當選	742 票	堀 越 清 六君
	次點	5 票	吉 田 徳 次 郎君
		5 票	阿 會 沼 均君
		3 票	瀧 山 與君
		3 票	佐 藤 利 恭君
		3 票	山 口 昇君
		3 票	宮 本 武 之 輔君

以下略す

昭和 13 年 10 月 18 日

土 木 学 會

會 告

時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- A. 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣工の狀況、金額等のニュース
- B. 土木工學界の内外學協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- C. 官廳、會社、公共團體の組織事業に關するニュース
- D. 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工學、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣工せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

◎掲載の分には薄謝を呈上致します。

寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁数 頁数は本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）以内とされ度し。若し前記頁数を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文体 文体は文章的口語体とす。本文に重要な関係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基づき適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書体 縦書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあける事 名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 錢（三十五錢）、13.56 円（十三円五十六錢）、1~4 時間（一時間乃至四時間）、
88326 t（八萬八千三百二十六噸）、昭. 13. 1. 1.（昭和十三年一月一日）、
m（米）、 m^3 （立方米）、kg（珎）、83.4 尺（八丈三尺四寸）
 6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し（本會制定用語は本會發行の土木工學用語集參照）。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 図表 (1) 図表は図-1、表-1 等と書き図表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 図面はその縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の野は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 図表の文字數、字は特に大きく書かれ度し、縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。
(7) 図表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其他 (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 講演及論說報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 彙報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り資費にて御要求に応じます。

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄に爲替その他の方法に依り御送金相成度し。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下され度し。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

卷	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部) (円)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	*	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	1.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	—	1.00
18	—	—	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	*	*	*	1.00
21	—	—	*	*	*	*	—	*	—	*	—	*	*	1.00
22	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	*	—	—	—	*	—	*	—	*	—	1.00
24	—	*	*	—	—	—	—	*	*	*	—	*	*	1.00
第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)														1.50
第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)														1.30
震害調査報告書 (1, 2, 3)														18.00
応用力学聯合大會講演集														1.00
鉄筋コンクリート標準示方書														1.00
同上解説														3.50
土木工学論文抄録														0.50
土木学会誌索引 (第 1 卷第 1 號~第 20 卷第 12 號)														2.50 (送料別)
土木工学用語集														

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1回1頁	35円	1回半頁	20円
指定廣告	{裏表紙3面對 向及廣向初頁}		1回1頁	40円
			1回1頁	60円
		色アート		

- 指定廣告は凡て1年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の1割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

昭和13年10月25日印刷 昭和13年11月1日發行 (定價金1円)

東京市牛込區南町33番地
編輯兼發行者 中村 孫 一

東京市神田區美土代町16番地
印刷者 島 連 太 郎

東京市神田區美土代町16番地
印刷所 三 秀 舍

東京市麴町區丸ノ内3丁目6番地
發 行 所 社 團 土 木 学 會
社 團 法 人

電 話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番

DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXIV, NO. II, NOVEMBER 1938.

CONTENTS

	Page
Proceedings of the Society.....	99
Papers	
Steel Plate Lining of the Pressure Tunnel at Sinanogawa Electric Office of I. G. R. <i>By Takesi Satō, C. E., Member,</i> <i>By Kōsirō Okabe, Assoc., Member.</i>	1181
Ground Sinking and its Remedies in the City of Ōsaka. <i>By Namiki Fukutome, C. E., Member,</i>	1197
Necessity of Waterflow Control at Kisogawa. <i>By Tōitirō Yamaguti, C. E., Member.</i>	1199
Highway Improvement Plan at Aiti Prefecture. <i>By Tōitirō Yamaguti, C. E., Member.</i>	1203
Actual Results of the Aerial Photographic Survey. <i>By Kanzi Watanabe, C. E., Member.</i>	1204
Concrete Pavement of Saga National Road, <i>By Hiroshi Ōno, C. E., Member.</i>	1207
On the Buckling Load of Columns with Variable Cross Sections. <i>By Daizo Hiura C. E. Member.</i>	1210
Construction Work of Manaitayama Tunnel, Ōitoline. <i>By Masasi Oda, C. E., Assoc. Member.</i>	1215
Design of the Long-Span Reinforced Concrete Arch Bridge for Railways. <i>By Yosimi Iwanaga, C. E. Assoc., Member.</i>	1218
Notes on Matters of Interest	1223
Abstracts of Selected Articles	1227
Current Notes	1265
Engineering Literatures	1271
Patent News	1277
New Publications	1279

OFFICE

No. 6, 3-TYŪME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

昭和十二年九月十日第三種郵便物認可
昭和十三年十月二十五日印刷納本
昭和十三年十一月一日發行

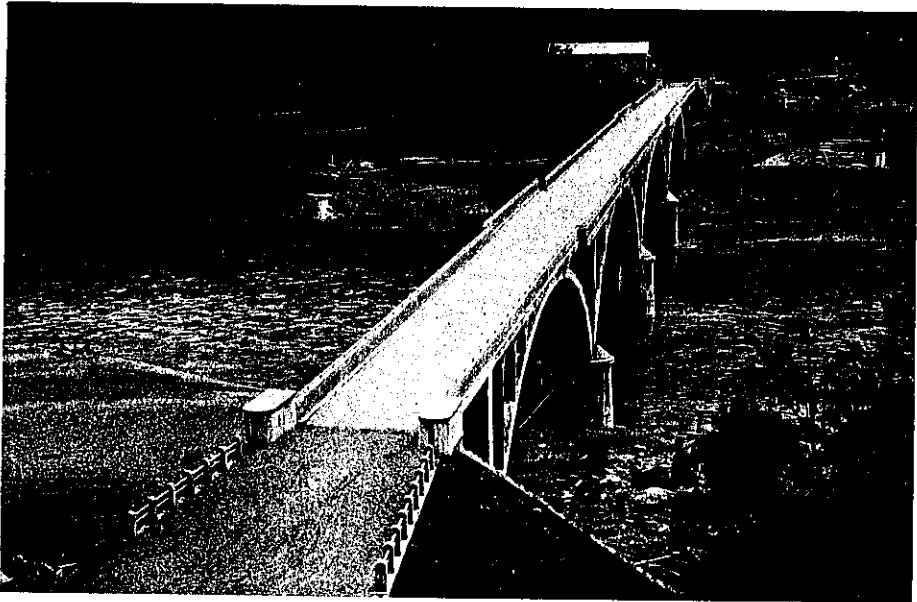
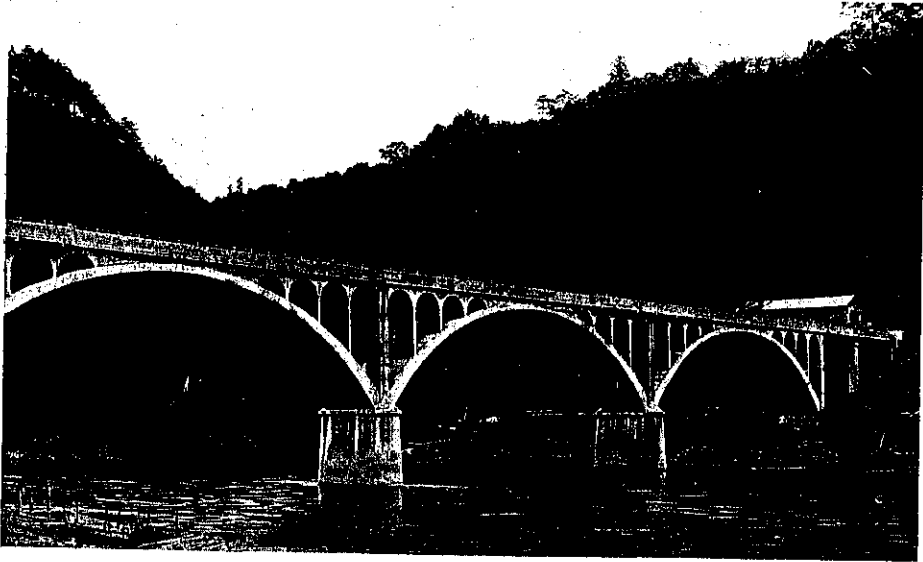
（每月一回一日發行）

土木學會誌

第二十四卷

竣功せる小倉橋 (神奈川県下)

上図は右岸下流側より見たる小倉橋、下図は右岸より見たる全景



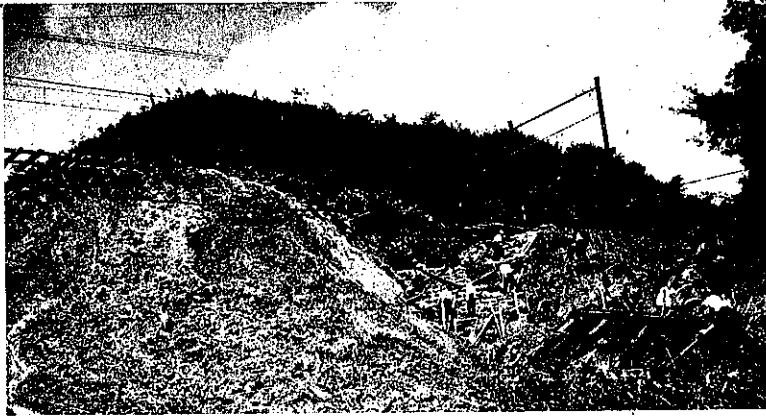
位 置： 神奈川県津久井郡川尻村，湖南村入會相模川に架す
路 線 名： 府縣道第 74 號愛川，川尻線 橋 長： 177.03 m
有效幅員： 4.50 m (但，待避所 5.50 m 延長各 20.0 m 2ヶ所)
構造概要： 鉄筋コンクリート無鉸拱 4 径間 (支間 36.00 m, 拱矢 8.00 m, 拱肋幅 4.50 m, 拱肋厚 0.50 m 及 1.20 m)
側径間 (鉄筋コンクリート T 型桁, 左岸 2 径間, 右岸 1 径間, 支間各約 9.00 m)
取付道路： 延長 508.00 m, 幅員 5.5 m 總工費： 145 110 円 工事施行方法： 神奈川県直營
工事着手： 昭. 11. 10. 16 竣 功： 昭. 13. 6. 30.

國有鉄道仙山線作並奥新川間築堤缺壊事故

昭和 18 年 9 月 1 日午前 10 時 50 分豪雨のため線路築堤（片盛土，法長約 26 m）約 12 m 缺壊せる所に第 307 列車差懸り急停車も及ばず機關車（ED19 型）脱線，曲線（半径 300 m）外方約 20 m 築堤下に顛落せり。尙同日午後 5 時 20 分に約 20 m 離れたる所，築堤延長約 14 m 缺壊せり。

応急工事費 5 000 円 復舊工事費 31 250 円

築堤缺壊電氣
機關車顛落狀況



応急工事（20 呎 2 連 40
呎 1 連假設）狀況

